戸畑祇園東大山笠
感染拡大防止ガイドライン

一般社団法人　東大山笠

令和４年７月

１．はじめに
２．参加条件
３．感染症拡大防止対策
⑴共通事項
⑵山笠運行時
⑶囃子方
４．感染が疑われる者が発生した場合

1．はじめに

本ガイドラインは、厚生労働省及び福岡県や北九州市より出される感染症対策の方針及び新型コロナウイルス感染症対策専門家会議による提言等を踏まえ、東大山笠が主催若しくは参加する戸畑祇園大山笠行事及び各種イベント等での活動を行うにあたり、感染症の拡大防止をはかりながら、戸畑が誇る伝統文化の次世代への継承を目的に取りまとめたものである。

本ガイドラインの内容は参加者全員が理解し、遵守すべき事項である。本ガイドラインに記載されていない事項については厚生労働省及び福岡県や北九州市より出される感染症対策の方針に準拠する。

厳しい内容のガイドラインとなっておりますが、東大山笠に所属する全員の健康と安全を確保するとともに戸畑祇園大山笠の伝統文化を継承していく為、何卒ご理解とご協力をお願い致します。

2． 参加条件

⑴ 新型コロナウイルス感染予防ワクチン３回接種若しくは検査（ＰＣＲ検査、抗原検査等）を実施し、陰性が確認された方

⑵ 本ガイドラインの内容を理解し、遵守される方

※新型コロナウイルスの感染に関して、東大山笠では一切の責任を負いません。

参加される方は自己責任において感染対策・健康管理をしっかりと実施願います

※下記に該当する方の参加はできません

⑴ 参加する当日及び参加前7日間の体温が平熱（３６℃～３７℃）を超えた方

⑵ 体調がすぐれない方

（新型コロナウイルスの感染症状がある方含む。味覚・嗅覚異常など）

⑶ 参加する日の前日から7日以内に同居する家族若しくは本人が新型コロナウイルスに感染または濃厚接触者と特定された方及び特定が疑われる方

（医師もしくは保健所より外出自粛解除の判断がなされた場合は除く）

３．感染拡大防止対策

⑴　共通事項

①飛沫の抑制の為、適切なマスクの正しい着用の徹底
（呼吸器疾患防止の為、屋外にて人との距離が２m以上確保できる場合は除く）

②手洗、手指・施設の消毒の徹底（共有する備品等は適宜消毒を行う）

③室内の場合は換気の徹底（１時間に２回以上・１回に５分間以上）

④密集の回避
（できるだけ２mの距離をとる。対面を避け、互い違いや横並びの配席を行う）

⑤飲食時の感染防止策の徹底（参加予定日の7日前より不要不急の外出は極力自粛し、３密となりやすい飲食店の利用は控える。黙食の徹底、飲食中以外のマスクの着用を徹底する）

3．感染拡大防止対策

⑴　共通事項

⑥参加者の健康管理

（参加者は東大山笠健康チェックシート兼誓約書を活用し、自己管理に努める）

⑦参加者の把握

（東大山笠参加者リストを活用する。担ぎ手各会ごとに取り纏める）

⑧新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の利用の推奨

App Store からダウンロード

新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA

Google Play で手に入れよう

３．感染拡大防止対策

⑵　山笠運行時

山笠を担ぐ時は密集状態が避けられない為、バブル方式を参考にし、万が一感染者が発生した場合にも濃厚接触者が最小限となるように対策を行います

①山笠を担ぐ時以外はマスクの正しい着用の徹底

（但し呼吸器疾患防止の為、屋外にて人との距離が２ｍ以上確保できる場合は除く）

②手洗・手指、山笠の手の触れる部分の消毒の徹底

③濃厚接触回避の為、おおよそ５分に一度山笠を停止し、担ぎ手を交代します

（山笠運行停止の時間・場所は当日の天候や交通状況により総監督が判断します）

④飲食、会食の中止

（山笠運行前、運行中及び終了後等のお神酒など飲食物の提供は中止します。但し山笠運行中の水分補給等は除く）

⑤担ぎ手は担ぎ棒ごとに４グループに分け、他のグループと濃厚接触しないように行動制限致します（飲食を伴う会食等）

3．感染拡大防止対策

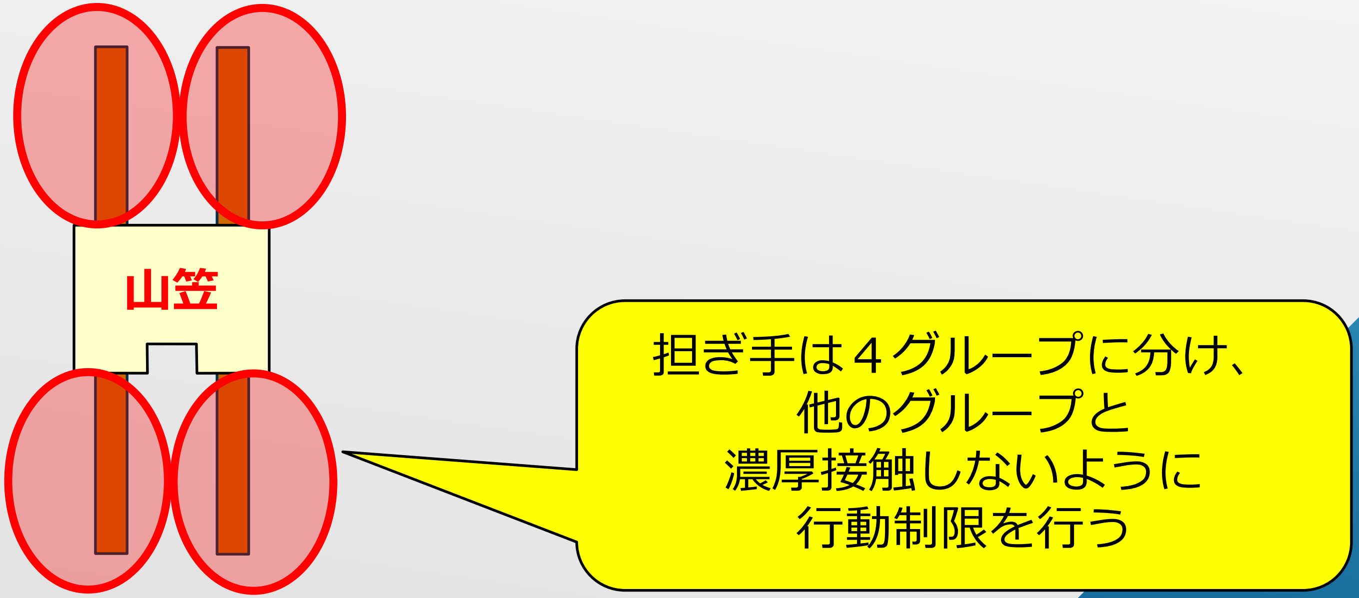
⑵　山笠運行時

⑥担ぎ手交替時は、前番が全員退いた後に担ぎ棒の消毒を行い、後番の担ぎ手が入ります。

⑦花の御礼の口上等、マスクを外して大声での所作を中止します。

⑧担ぎ手各会の筆頭青年代表は、所属する者の健康状態を把握確認し、定期的に執行部へ連絡・報告を行う。（連絡・報告の時間場所等は執行部より指示します）

⑨一般観客の密集回避の為、当日の運行ルートは非公表とします。



３．感染拡大防止対策

⑶　囃子方

**　囃子方は密集状態が避けられない為、バブル方式を採用し、万が一感染者が発生した場合に濃厚接触者が最小限となるように対策を行います**

　①山笠に上がる時以外はマスクの正しい着用の徹底

（但し呼吸器疾患防止の為、屋外にて人との距離が２m以上確保できる場合は除く）

　②手洗、手指・施設の消毒の徹底

　（共用で使用するバチ・しゅもく・ちゃんぷく等は使用者が変わるごとに消毒を行う）

　③濃厚接触者を最小限に留める為、囃子方はグループ分けし、グループ外の人と濃厚接触にならないように行動制限を行います。飲食や会食もグループごとに行います。

４．感染が疑われる者が発生した場合

⑴　山笠運行中に担ぎ手より感染が疑われる人が発生した場合

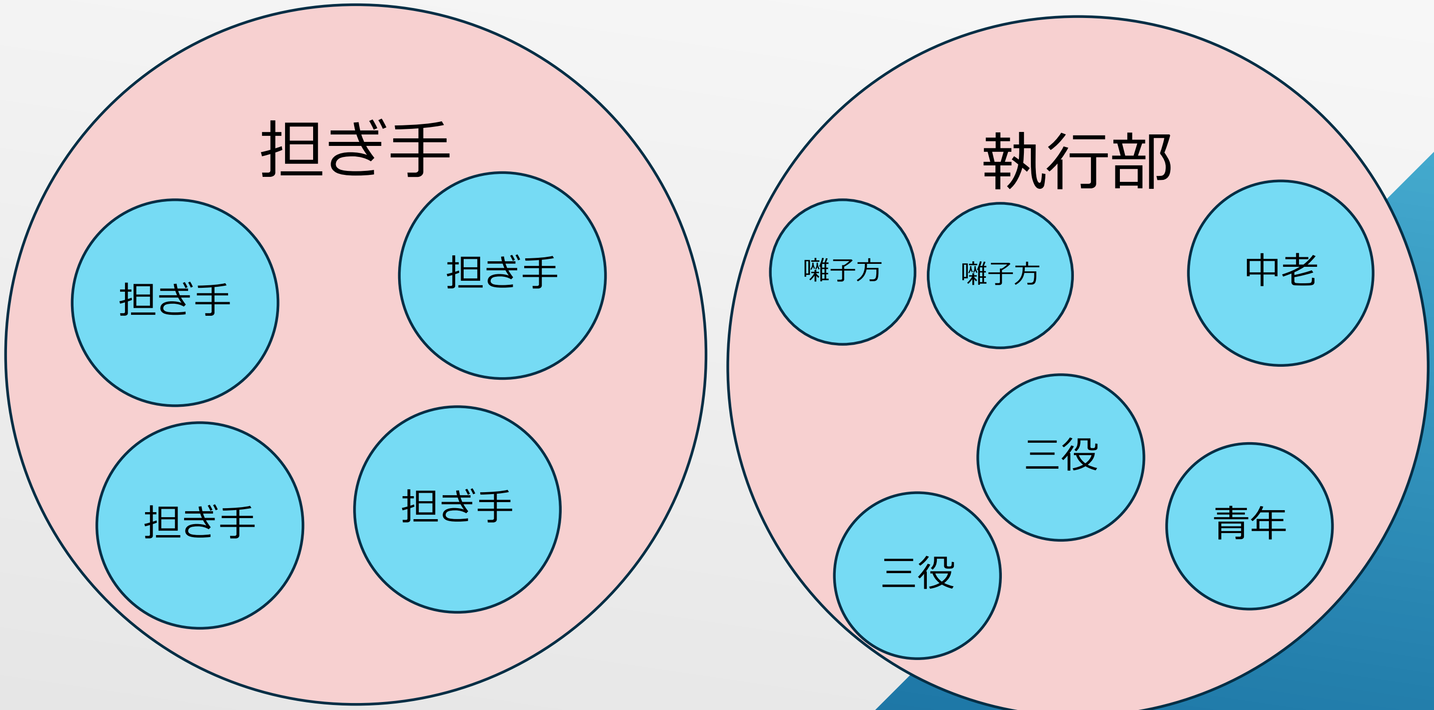
①感染が疑われる人が所属する会の筆頭青年代表は状況を確認し、副総監督へ報告・連絡を行う。

②感染が疑われる人及び担ぎ棒のグループ内の人を速やかに隔離等を行い、状況に応じ相談窓口へ相談・問い合わせを行う。

⑵　囃子方（執行部）より感染が疑われる人が発生した場合

①副総監督は状況を確認し、感染が疑われる人及びグループ内の人を速やかに隔離等を行い、状況に応じ相談窓口へ相談・問い合わせを行う。

感染拡大防止対策　バブル方式とは

　新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止策の一。国際的なスポーツ大会で、選手や運営関係者を隔離し、外部と接触させない方式。東京オリンピック2020で採用された事で注目が高まった。

泡（バブル）の膜でとり囲むように、内部と外部を遮断することからの名称。